

【外科】

虚血性大腸炎について

国吉病院

医師 木下 貴史 さん

虚血性大腸炎とは、大腸への血液の流れが悪くなり、大腸の粘膜が虚血になる病気です。虚血が起こると、粘膜の浮腫、びらん、潰瘍、さらには壊死を来すことがあります。

症状は、突然の強い腹痛（左側に多い）、頻回の水様下痢、それに続く下血（鮮血便）などが特徴です。背景として、高血圧、糖尿病、心疾患や脳血管障害などの動脈硬化性疾患を持つ方や、ひどい便秘、腸管蠕動



障害のある方など、一般的に高齢者に多く、好発部位は、下行結腸からS状結腸にかけて、左側結腸に発症することが多い疾患です。診断は、理学的所見、下部消化管内視鏡、画像検査（注腸、コンピューター断層撮影ⅡCTⅡ検査等）が有用です。

治療法は、基本的に保存的加療（絶飲食による腸管の安静と点滴）で、数日から2週間程度で改善することが多いのですが、腸管虚血に

よる狭窄や壊死所見が強い場合は、外科的加療（手術）になることもあります。

当院では、内科的加療をはじめ、上下部消化管内視鏡、各種画像診断、外科的加療（低侵襲な腹腔鏡下手術等）に対応しております。気になる方は一度ご相談ください。

医療法人三和会 国吉病院

高知市上町1-3-4

☎088-875-0231

【診療時間】

午前9:00～正午

午後2:00～午後5:00

※土曜日は午前診療のみ

【休診日】土曜日午後・日曜日・祝日

※急患は時間外でも診療いたします

【診療科目】

消化器内科・循環器内科・

消化器外科・緩和ケア内科・

整形外科・内科（ペインクリニック）他